

完形の須恵器・土師器が出土— 5号墳 —

古墳時代後期（約 1,500 ～ 1,400 年前）の古墳です。今回の調査でみつかった墓の中では最も新しく、1つの埋葬施設がみつかっています。ここには割竹形木棺という、丸太をくりぬいて作られた木棺が納められていました。5号墳からは、杯身・杯蓋・提瓶などの須恵器と土師器の椀が完全な形で出土しました。出土状況から、これらの土器はもともと棺外に置かれていたものが、棺が腐ったことで棺内に落ち込んだものと考えられます。



5号墳主体部（北から）



土器の検出作業

まとめ

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代初頭と古墳時代後期の墳墓・古墳とこれらに伴う埋葬施設が数多く見つかりました。周辺を一望できる、見晴らしの良い場所につくられたこれらの墓は、地域の有力者とその家族の墓と考えられます。

これらの調査成果は、新温泉町、ひいては山陰から北近畿地方における弥生・古墳時代の地域社会や埋葬方法を考える上での貴重な発見となりました。

出土した遺物や調査中の記録は、今後整理し、報告書にまとめます。その中で新たな事実が分かることもあります。今後の調査の進展にご期待ください。



初瀬谷・柏谷古墳群から岸田川流域（東）を望む

はつせだに かやねだに 初瀬谷・柏谷古墳群の発掘調査成果

令和4年7月2日（土）

調査成果説明会資料



兵庫県教育委員会
（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1（兵庫県立考古博物館内）
URL: <https://www.hyogo-ctc.or.jp>

はじめに

初瀬谷・柏谷古墳群は、新温泉町内を流れる岸田川西岸に発達した丘陵の尾根線上に位置します。遺跡の発掘調査は、地域連携推進（道路改築）事業（（国）178号浜坂道路Ⅱ期）に伴い、（公財）兵庫県まちづくり技術センターが兵庫県教育委員会からの委託を受け、5月から行っています。

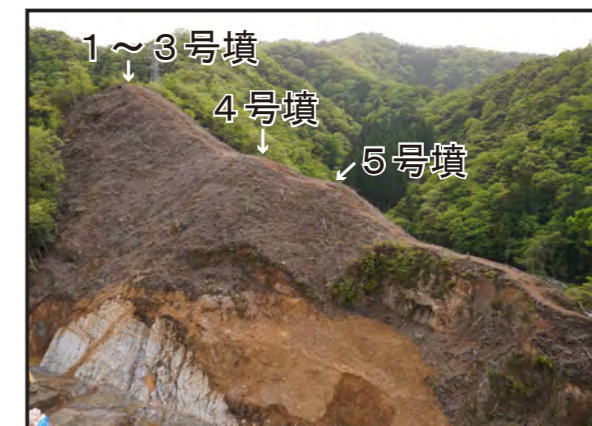
今回の調査では、これまでに弥生時代後期から古墳時代後期にかけての墳墓と古墳が合計5基みつかり、これらに伴う埋葬施設12ヶ所を調査しました。埋葬施設からは、土器、青銅鏡、鉄製品、玉類などの遺物が出土しています。地域の歴史を物語る貴重な発見となりましたので、主な成果を紹介します。



調査地点の位置（国土地理院地図に加筆）



調査地点 遠景
（南東上空から、奥が浜坂海岸）



調査前の様子（北東上空から）

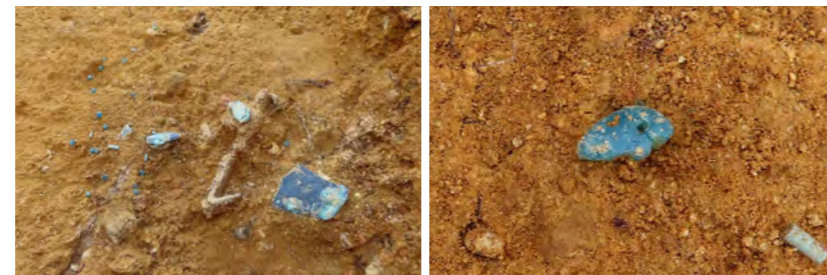
隣り合う墳墓群—1～3号墳—

最も標高の高い場所では、弥生時代終末期～古墳時代初頭（約1,800年前）の3基の墳墓（1～3号墳）がみつかりました。それぞれの墳墓は、溝で区画されており、1号墳で1つ、2号墳で3つ、3号墳で2つの埋葬施設がみつかりました。いずれの埋葬施設にも木棺が納められていたと考えられます。

いくつかの埋葬施設からは、墓に供えられた土器がみつかったほか、2号墳からは貴重な副葬品が出土しました。2号墳の第1主体部からは鉄製武器（剣かやりとみられる）が、その横の第2主体部からは青銅鏡の破片・首飾りとみられる玉類（ガラス勾玉・ガラス小玉・管玉）・鉄製品がみつかりました。青銅鏡は、中国の後漢という国で作られた「内行花文鏡」と呼ばれる鏡の一部でした。以上の副葬品から第1主体部には男性、第2主体部には女性が葬られたと考えられます。



鉄製武器の出土状況
(2号墳第1主体部)



出土した鏡・ガラス小玉（左）とガラス勾玉（右）
(2号墳第2主体部)



尾根線上につくられた墳墓群（画面下が北）



2号墳 全景（西から）



3号墳 全景（西から）

複数の埋葬施設を発見—4号墳—

弥生時代後期（約2,000年前）の墳墓です。今回の調査でみつかった墓の中では最も古く、4つの埋葬施設がみつかりました。1～3号墳と同じように、木棺が納められたと考えられます。これらのうち、第1主体部からは墓に供えられた弥生土器（壺・甕・高杯・注口土器・鼓形器台）が出土しました。また、第1主体部横の第4主体部からは玉類（ガラス管玉・管玉）が出土しています。



4号墳 全景（北から）



第1主体部の弥生土器（左上）と
第4主体部の管玉（右下）

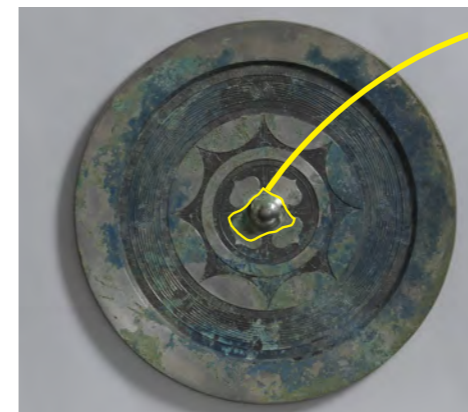
コラム—初瀬谷・柏谷古墳群の逸品—

出土した弥生土器や土師器には、鳥取県で出土する土器と似た形のものが多くみられ、鳥取地域と共通の文化圏にあったことが分かります。

また、2号墳第2主体部出土の青銅鏡は、中国から海を越えてもたらされたものです。破片ではありますが、とても貴重な品物のため、墓に葬られた人は、大切に保管していたようです。

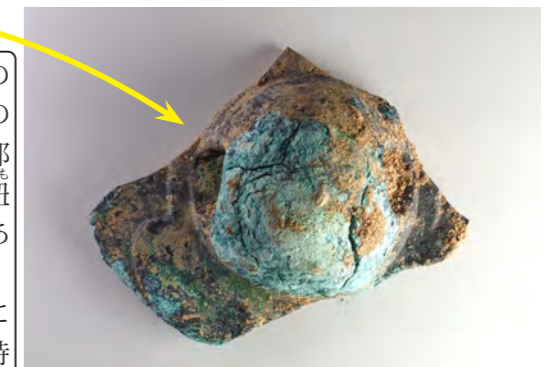


鳥取県の弥生土器 ※1



完形の内行花文鏡 ※2

今回出土したのは、鏡の中心の「鈕」と呼ばれる部分です。鈕には、紐を通すための穴がつけられています。また、鈕の周りには、内行花文鏡に特徴的な葉の形の文様がみられます。



出土した内行花文鏡の破片
(2号墳第2主体部)

※1：鳥取県立むきばんだ史跡公園編 2015 『よみがえる弥生の国邑』妻木晩田遺跡』より引用

※2：兵庫県立考古博物館加西分館所蔵資料